

大氷川暮色 画・向原 常美 <観光荘所蔵>

## 緑を遡る

まだわずかに緑の残る家の近くの川沿いには、田んぼや川柳の林が広がっています。虫や魚が群れ、それらを餌に鳥が来て、鼯や狸、狐が身を潜めます。少し小高い丘に登れば、川沿いや丘陵の緑が幾筋もの帯となって山々に向かい伸びているのが見えます。大岳山を中央に三頭山、川苔山などの奥多摩の山々です。その様子は流れ出る緑の奔流が溶岩のようにも見え、いつしか気持ちはその流れを遡っています。

はじめは境界の大岳山、三頭山、棒ノ折山あたりから歩きました。元来不精なたちなので車が使えれば林道を行き、車道が途絶えれば歩きます。奥多摩に勤めて後は川苔山や御前山、雲取山へ足をのびしました。山頂に立てば、さらに緑の帯の奥が見えます。北は西谷山や三ツドッケから両神山へ。西に飛竜山、笠取山、大菩薩嶺。尾根をたどり甲武信ヶ岳、国師ヶ岳、森林限界を超える金峰山。都心近くにありながら、実に多様性に富んだ森が広がります。

森を進めば植生も昆虫も魚も鳥も獣も変わります。

しかし河原の雑草同様遅く、苔むす倒木か

ら芽生えるブナの若木。近くの淵の鱒と同じく清流には岩魚が身を潜めます。鷺が山鳥に、鶯が鷹に代わり、鹿や猿や熊が加わっても、そこには変わらぬ命の営みが鶯のように絡み合い、複雑な生態系が形作られています。

この森では人々の暮らしも豊かに層をなしています。尾根道の多くは、道祖神や祠が点在する古の往来です。村々に自然との闘いと調和を憶させる芸能や民話が伝わり、切り妻や兜造りの里の様子に綿々と続いてきた山の暮らしを思います。

尾根道は蜘蛛の巣のように、関東・甲信の各地に伸びて広がります。地図を広げるとその道筋と重なるように、秩父多摩甲斐国立公園と記された濃い緑の広がりがあります。つながる人の暮らし、絡み合う様々な命の営みを想像すると、緑の塊は限りなく沢山の命をきらめかせて息づく一体の大きな生き物のように思えてきます。その息づかいはこの大きく豊かな森のさらに奥へと私たちを招いています。

(奥多摩町立氷川小学校 石上 和伸)  
 あきる野市在住

## ～とっておきの山歩きガイド～

### —山里歩き— 丹叟院阿弥陀堂

11月3～4日 11時～15時 一般公開

今、話題のフットパスに好適地の古里駅周辺。そこに、朱色の阿弥陀堂があります。地元では、観音堂とも呼ばれ、明治13年の皇国地誌・小丹波村誌草稿に「左右壇上二、秩父三十四番ノ観音ノ小像ヲ安置ス」との記述があります。

今年、2016 東京都文化財ウィークに合わせて11月に一般公開されます。

弁柄塗の建物は、間口3間、奥行き2間半、天井は鏡天井で梁や垂木は鋸を使わず手斧が使われ須弥壇や丸柱なども一見の価値があります。

堂内に安置されている阿弥陀三尊の前に立つと端正な姿に心を洗われる思いがします。左右の棚に17体ずつ計34観音像があり観音堂と呼ばれる由縁です。

今回、ご覧いただきたいのは、「閻魔大王」。人は、死の世界へ行くと生前の行い次第で地獄へ行くか極楽に行くか、閻魔様に裁かれるという。

この際、阿弥陀様、観音様だけでなく、我が行状を思い、閻魔様と仲良くしておいたほうが身のためかもしれません。「地獄の沙汰も金次第」とか。お賽銭をはずんで極楽行きをお願いしてみては？

奥多摩町発行の山里歩き絵図の「No.5 小丹波」の記事に阿弥陀堂内には二鬼を従えた閻魔像があると記されていますが、どう見ても鬼のようには見えません。個人的見解ですが、一人は、判決を読み上げる役、もう一人は、判決を記録する役人ではないでしょうか。あなたの判定は如何に。

山里歩き絵図・全22集は、奥多摩駅前の観光案内所や町役場等

でケースに入れて無料配布していますのでご利用ください。



(岡崎 学)

### 檜原都民の森から山のふるさと村へ

奥多摩は11月ともなると紅葉が始まり、山々は色づいて素晴らしい季節となる半面、日暮れが早いことにもご用心ください。

このコースは JR 武蔵五日市駅からバスで約60分。東京都の西端1000m以上の山々が連なる所に檜原都民の森があります。高い青空、新鮮な空気、足元はフカフカの山道です。五感を使って自然を楽しんでみてはいかがでしょうか…。

バス停から直進して森林館の先、右側に炭焼窯が見えてきます。ここから右に入る道が里山の路です。歩きやすい緩い坂道で、落葉樹が続く森に癒されつつ、60分で砥山の手前のテラスに到着。ここを通過すると案内板があり、右へ入ると風張峠への道です。左側が崖で細い道なので、足元に注意しながらの60分の道のりとなります。奥多摩周遊道路が右下に見えてきたら風張峠(1302m)で、昔の石仏が出迎えてくれます。緑に囲まれた好適地で、ちょうどお昼頃となります。

午後は、風張峠から落葉の積もった道を60分程降って行き、奥多摩周遊道路に出たら車に注意しながら横断します。山のふるさと村の標識があり、尾根道を降って30分で石仏がある分岐に着きます。山のふるさと村の入口です。左の坂道を降り15分程でふるさと村の広場に到着です。

山のふるさと村は、かつて岫沢、日指、南の三集落がありました。小河内から風張峠、浅間通しの山道を越えて檜原本宿経由で五日市へ五里の道だったそうですが、小河内・氷川(奥多摩)間の道は三里半の距離とはいえ、急峻な山道であったために、明治の中頃までは五日市との交易が深かったそうです。

山のふるさと村から湖畔の小道を60分弱で麦山浮橋に着きます。この道では倉戸山が見え、野鳥の鳴き声が聞こえてきます。そして浮橋からの奥多摩湖の眺めは格別です。浮橋を渡るとバス停は、すぐ近くにあり25分程で奥多摩駅です。

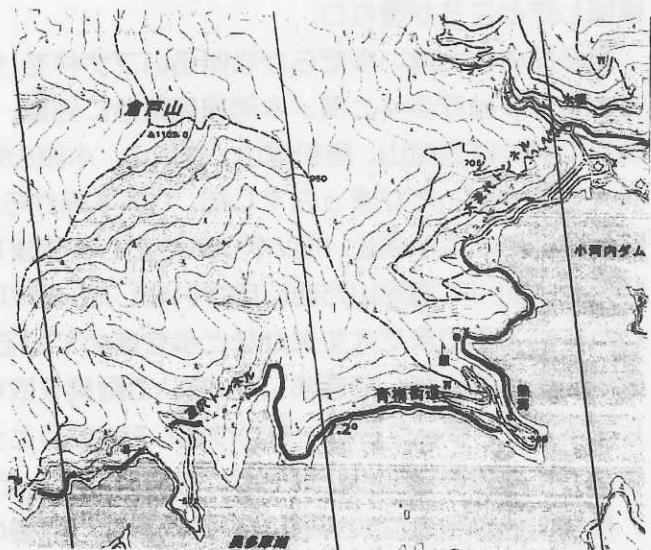
(追記：麦山の浮橋はダムの貯水率によって通行止めになる事があります。) (武田 和代)

## 秋からの奥多摩山歩き

～ワンポイントアドバイス～

今年も早や雲取山から紅葉前線が降り始めている。秋から初冬へかけての山登りでは、紅葉の美しさもさることながら、澄んだ空気のもとで遠くの山々を見渡す(山座同定)にも絶好の機会である。今号では山座同定に欠かせない地形図をとりあげてみたい。

一般に市販されている登山地図(1/5万)の他に、国土地理院発行の地形図(1/2.5万)をも併せて用意したい。この地形図は日本全国を網羅し市販されているので、目的の山に合わせて購入する。



(例:上図は地形図(1/2.5万)から倉戸山周辺を抜粋)

図で地形を表す等高線が標高差10m毎に主曲線(細線)、また50m毎に計曲線(太線)が引かれている。これらの線の粗密により、等高線が詰まっていれば急傾斜の地形を、また粗であれば緩やかな地形を表している。つまり倉戸山の南面は急傾斜地であり、緩傾斜の尾根に点線で示す登山道が付けられている。なお、実線は幅3m未満の道路を示し、湖岸沿いにある太線は本来赤色で表されていて、路線バス道であることを意味している。

登山には地図とコンパス(方位磁石)が必携である。地球の傾きにより、地図の上が必ず真北を表すとは限らない。地形図をよく見ると、その地域での磁石の示す北方向(磁北)が枠外に記入されており、ここ奥多摩の辺りでは7.2度西に傾いている。出掛ける前にあらかじめ上図のように磁北線を記入しておく。入山時には何時も地図とコンパスを携え、休憩の都度これらを活用、自分の今居る位置と見える山々を展望し、山歩きを100倍楽しむ自立型の登山者になりたい。(富士 光男)

## 山岳遭難事故事例

5月、東京消防庁消防ヘリコプターの山岳救助出動は4回、青梅警察の救助出動は7回となっています。なんと山岳事故が多いことでしょう。

(1) 5月15日(日)奥多摩三山の1つ、三頭山に登るため車で檜原都民の森へ来たAさん、64歳。以前から糖尿病の症状があり毎日薬を服用していた。久しぶりの山であったが、妻も一緒であったので楽しみにしていた。朝8時ごろ都民の森をスタートし鞆口峠から三頭山をめざした。

鞆口峠でしばらく休憩を取り、三頭山の方向に登り始めたところ、午前9時Aさんが突然倒れた。後ろを歩いていた妻は慌ててしまいどうすることもできない。幸い滑落するようなどころではなく怪我はないようだった。そこに、同じく三頭山に登ろうと後ろから来た若い男性が携帯電話で救助を要請した。救助隊は10時14分Aさんと接触、担架で都民の森駐車場へ運んだ。その時、飴と水を飲ませた。Aさんは駐車場に着く前に意識は戻り、話もすることが出来る状態まで回復できていた。その後病院に搬送した。

(2) 6月1日(水)Bさん66歳、女性3人で渋谷区から御岳山、ロックガーデンを目指していた。朝から体調が悪く、気分もすぐれなかったが、楽しみにしていたし、当日のキャンセルもしたくなかったので参加した。七代の滝で昼食を食べたが、その後も体調は戻らず、荷物は他の2人に分担して持ってもらった。天狗岩からロックガーデン入口へ向かって100mぐらい行った所でつまずき、15m滑落した。13時20分、友人が救助要請をした。救助は担架で担ぎ出し、ヘリコプターで病院へ搬送した。

今回の2件の事故事例はどちらも持病、体調不良で起きたものです。

糖尿病であれば山に登り汗をかき低血糖になることは予想できたはず。薬は持っていたそうです。同行者にその時の対処方法を伝えておくことも必要ではなかったのか?

また、御岳山での事故は、体調が悪いのに友達に迷惑をかけるからと参加、結果的に多くの人に迷惑をかけてしまうことになりました。

体調のことは本人しかわかりません。無理をせず楽しく山に登りましょう。(小峰 一郎)

## ～行ってきたあよ～

石井家 珍道中“蕎麦粒山～初夏の山歩き”編

“山登り”3年目、“友の会”2年目。体力・知力、両面に課題多し。原稿依頼をお受けするには、全くの“初心者”。今回は、初心者なりの“あるがままの感想”です♪

6月10日(金) 集合場所：奥多摩駅 集合時刻：8時、早めに到着。既に先着が大勢、やる気満々♪(“天候”も大丈夫そう)“初心者”の我が家は、毎回朝は“緊張気味”。馴染みの顔を発見する度に“安堵”。“蕎麦粒山”、実は“川苔山”止まりの我が家に“近くて遠～い山”。諸事情から初心者の心構えの“予習”できず、“未知の山”の状態の参加。また、なんと間の悪い。前日、母(私)が自転車転倒。“臀部”を強打、不甲斐なく痛みを抱えての参加です。当日、抽選もれの方が大勢と知り、欠席せず良かった～。ですが、世の中は甘くない。“ルート変更”で“急登”はないが“5時間の登り”。しかも“3班”は、“健脚”を思わせる男性陣。なかば、“開き直り”、遅れて迷惑とならぬよう出発です。

登り易さに助けられ、不安を抱えながらも少しずつ周囲の話題が耳に。“知識”・“経験”共に乏しい我が家には、全てが“学びの機会”です。個人では見落とす事物にも気付け、“知識・知恵”も得られ有り難いです。まずは、“ヒル”に遭遇。“緑とオレンジ”、大きく“不気味”。生活圈では目にしない“不思議?”がいっぱいです。途中で“ト音記号”を思わせる形状の“ねじれた樹木”。どうしたらあんな風になるの。一本だけ、不思議です。

尾根伝いに左手には“秩父の山々”。普段目にしない風景に“うっとり”。“広葉樹”が多く、季節ごとに趣の異なる“景観”が楽しめそう♪

登り易く、昼食場所の“ミッドック”までの“3時間”は短く感じたほど。大きな建物にビックリ。大変な作業だったでしょうに。昼食後の“2時間”、皆さん足取りも軽く“余裕”。

“蕎麦粒山”の頂上は、岩場で“虫”が多く、“休憩”にはちょっと…。下山は“ハイ・スピード”。急な斜面、滑りやすく“要注意”。あっという間の下山です。“初心者”でも安心、楽しく参加できる“友の会”。今後も宜しくお願いします。

(奥多摩友の会会員：石井 江利・玲香)

## 雨の黒川山(鶏冠山)

台風10号の影響で実施するか判断に迷いました。曇り雨の天気予報に望みを継ぎ実施。しかし、奥多摩の駅につくと空は鉛色で今にも雨が降りだしそうな様子でした。

受付で台風がくる予報にもかかわらず、当日のキャンセルがひとりもいなかったのは、個人では行きにくい鶏冠山だからでしょうか？バス二台に分乗して1時間程で柳沢峠の駐車場に到着、駐車場の前の道路を横断したところが登り口。

奥多摩の山と違いなだらかな明るいブナ林を、気持ちよく30分程歩くと梅ノ木尾根見晴台に到着。晴れていれば飛竜山、唐松尾山、笠取山、木賊山等が見えるはずでしたがまっ白でした。六本木峠から20分で林道に出て小休止。ポツポツ降りだしてきました。林道を横切って鶏冠山方面に向かいました。木々に覆われているのでまだ大丈夫かなと歩を進めていると、大粒の雨が降りだしてきました。急いで雨具を取り出し上下着て、ザックカバーもかけました。とうとう音をたてて本降りになり止めそうにない感じでした。

横手山峠から道はやや急になり、同じような道のくり返りで、なかなか黒川山直下に着かない気がしました。雨は増々ひどくなり皆、ひたすらだまって歩きました。久しぶりの大雨の中の登山です。頭の中でやはり、中止すべきだったかと脳裏を横切りました。

道がなだらかになると、やっと黒川山(1710m)三等三角点に12:00頃着きました。

「食事休憩30分」とりまるとは言ったもののカサをさしながら皆、立ち喰い状態です。落ちついて昼食どころではありませんでした。まだ降るのか不安でした。

ガイドで相談した結果、鶏冠山には行かず落合にも下らず、来た道に戻ることに決定しました。

柳沢峠に向かって10分位歩き出すと雨音が小さくなってきて、一番降っている時に昼食をとってしまった様でした。林道分岐に着く頃には小降りになって一安心。柳沢峠に着くとなんと駐車場は雨が降った様子がなくぬれていませんでした。

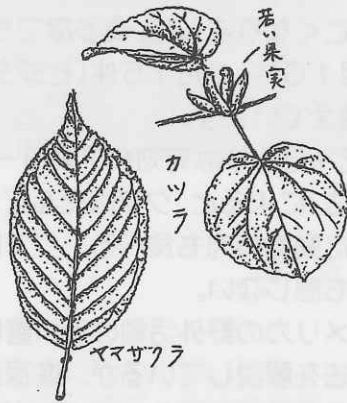
反省会では雨の中を初めて歩き、雨具、ザックカバーをつけた人、雨の時に何が必要か分かった人、雨の中の岩苔の緑がきれいと思った人、自然の恵みの雨の中の歩き方のイベントになりました。(島崎 やす子)

## 奥多摩樹木雑考

### 森香る季節

この間まで緑をしたたけさせていた森も、このところ生気に落ち着きをみせるようになり、枯葉も目立ち始めました。森に足を踏み入ると、木々のはざまから、これまで以上にふくいくとした香気が漂ってきます。中でも私達を濃厚な香りで引きつけてくれるのが、黄葉したカツラです。カツラが放つ香りに、奥多摩ではこの木を“しょうゆの木”と呼んでいます。香りの本体はマルトール。カラマツの樹皮から見い出されたカラメル様香気をもっている物質です。海沢園地から三滝への上り口の岩場には、カツラの大木が何本も生えていて、その香気に包まれて聞く滝のすばらしさは格別です。ちなみにカツラの名は「香出（香りが出る）」に由来するといわれています。

秋のイベントで、山のふるさと村をご案内した時、ひとりの若い女性が「あ、さくら餅の匂いがする」と叫んだのが印象に残っています。サクラの葉は、乾燥した



り細胞がこわれると、クマリンという物質がで、芳香を放つようになります。さくら餅の芳香はそのクマリンによるものです。さくら餅は江戸の中期、江戸向島長命寺の寺男山本新六が、若い桜葉を塩漬けにしておき、それに餅を包んで売り出したのがはじまりといわれています。葉が塩漬けになっている間にアメ色に変色し、芳香を出すようになったのです。以前、私はサクラの小枝をバケツの水に挿しておいたところ、水の中に落ちた葉がアメ色になっていて、それを鼻先にもってきたら、さくら餅の香りがしたのを覚えています。

黄葉しながら芳香を放つ。枯れ葉となりながら芳香を放つ。なんとも素敵な生の終わりのかたちですね。

(橋上 一彦)

## 奥多摩の野鳥

野鳥を通して知る 奥多摩の自然のすばらしさ

種の紹介は次回に譲るとして、今回はバードウォッチングの楽しさ、おもしろさについて述べてみたいと思います。

日本国内で観察できる野鳥は一年を通じて、約520種といわれています。(年によって増減はあります)日本は春、夏、秋、冬四季が有り、又、3000m級の高山から亜高山帯、里山まで地形が複雑です。

そして四方を海にかこまれて北海道から沖縄まで南北に長く亜寒帯から亜熱帯までの気候があり、いくつもの清流を有しています。樹木、草花の種類も多く、昆虫、小動物も多い。樹木の種類が多いので木の実も豊かです。野鳥にとっては最高の環境です。

さて、奥多摩の自然はどうでしょうか？

2017mの雲取山を始め低山までそして多摩川、日原川など清流が里山を流れており、樹木や草花の種類も多い。これも野鳥たちには最高の環境です。

奥多摩では日本固有種の大型キツツキのアオゲラやセグロセキレイを始め一年を通じて100種以上の野鳥が観察されています。このように自然に恵まれた奥多摩では手軽にバードウォッチングが楽しめます。バードウォッチングに出かけて野鳥や草木に目を向けていると草木の季節変化や、一本の樹木がさまざまな生き物で満たされている事に気がつきます。

そこで“バードウォッチングの観察術”を箇条書きにまとめてみます。

- 二本足で移動する人間を一番警戒するが、カモシカ、犬などにはあまり注意を払わないのでカモシカになって出来るだけじっと待つ…野鳥が近くに来やすい。
- あらかじめ野鳥が来ると予想出来る木を特定し、その近くでじっと待つ、双眼鏡のピントを大まかに合わせておく。
- 比較的音には鈍感なので小声なら大丈夫、おしゃべりしながらじっと待つ。
- 服装は赤、黄、白などは極力さける。これは野鳥は目立つ色は警戒するからです。

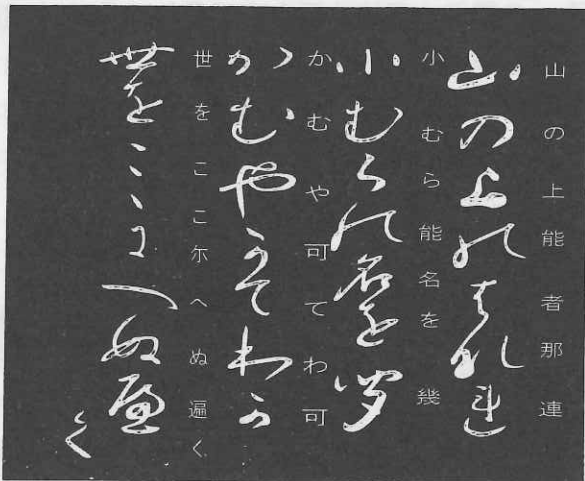
さあ、出かけましょう、お弁当を持って奥多摩へ！  
バードウォッチングに！

(畑 幸夫)

## 夏から秋 奥多摩山歩き ～イベント案内 11月から3月～

奥多摩観光協会では、多くのイベントを用意しております。「名人・達人観光ガイドの会」のガイドがご案内いたします。詳しくは奥多摩町観光案内所まで、お問い合わせください。

- No.25 11月11日(金) 三頭山 晩秋の奥多摩三山
- No.26 11月16日(水) 高岩山からのスカイツリー
- No.27 11月21日(月) 御岳山ロックガーデン
- No.28 11月25日(金) 奥多摩むかし道の紅葉
- No.29 12月1日(木) 皇女和宮碑と温泉神社
- No.30 12月20日(火) 御岳山シモバシラを見る
- No.31 2月24日(水) 自然散策 冬鳥、冬芽
- No.32 3月29日(火) 早春の陽だまりを歩く



### むかし道 川井玉堂の歌碑について

上記歌碑は「むかし道」道所にある川井玉堂の歌です。難しい文字で書いてありますね。「変体がな」と言われており、明治33年以降使われなくなった、ひらがなです。

「山の上の はなれ小村の名をかむ やがてわが世を こころへぬべく」

あの山の上にある集落はなんという村なのだろう、いつか私もあのような所に住んでみたいものだ。(変体がな、はガイドの沖倉さんの資料を参考にしました)

### 日原森林館から「白箸」を作ってみませんか

日原では昭和の初期ごろまで「白箸」を作っていました。しかし時代とともに衰退してしまいました。そこでその復活を願い、地域の皆さんにご指導いただき、白箸づくりを体験してもらいます。毎月第3土曜日、日原森林館で行います。詳しくは森林館0428(83)3300までお問い合わせください。

## 奥多摩地域情報局

- 10月29,30日 奥多摩ふれあい祭り(登記グラウンド)
- 11月 3,4日 古里丹叟院阿弥陀堂公開 11:00～
- 11月 5,6日 山ふる秋祭り(山のふるさと村)
- 11月12,13日 秋の奥多摩ミニコンサート(水と緑)
- 12月中 大丹波イルミネーション 大丹波地域

### ドングリの落とし物

奥多摩むかし道を歩いていると、コナラの小枝が道に落ちています。風で落ちたのかと思っていましたが、実は犯人がいます。ハイイロチョッキリというソウムシの仲間です。ドングリのの中に卵を産んで、枝を切り落していたのです。



### 奥多摩クマ情報

今年5月に秋田県で2件、3人の人がクマに襲われて亡くなりました。奥多摩でもクマの目撃情報が、5月10件、6月15件(ビジターセンターの情報)と増えています。

死んだふりは有効か?米田一彦著「山でクマに会う方法」によると、クマは死んだシカの肉を食べる。腐った動物の肉も食べる。クマは死体を食べることに何も感じない。

アメリカの野外活動の手引書は主にクマに会わない方法を解説しているが、進退窮まって逃げることが出来なくなったら、「地面に伏せ、両手で首(頸動脈)をガードし、クマが立ち去るのを待つ」と教えている。たいてい背中にザックを背負っているため、これで体のかなりの部分が守られるが、最悪の場合、足ぐらいいは噛まれるだろう。と書いています。問題は失神していれば別ですが、クマの鼻息が顔にかかっているのをじっとして我慢できるでしょうか?

### 表紙の水墨画 墨彩画家 向原常美

この絵は氷川溪谷を描いたものです。現在氷川の国民宿舎「観光荘」が所蔵されていて、食堂に展示されています。左隅の建物が「観光荘」です。

次号発行予定：平成29年1月15日

発行 一般社団法人 奥多摩観光協会  
住所 〒198-0212 奥多摩町氷川210  
電話 0428-83-2152 FAX 0428-83-2789  
編集 名人・達人観光ガイドの会